

【臨床・研究】

メタボリックシンドロームを中心とした 特定保健指導の実施とその課題

し わ く くに のり な び か とおる やま ぐち しゅう へい
 塩 飽 邦 憲^{1,2,3)} 並 河 徹^{1,2,4)} 山 口 修 平^{1,2,5)}
 ます だ じゅん いち LI Limei WANG Tao
 益 田 順 一^{1,2,6)} 李 麗 梅^{1,3)} 王 涛^{1,4)}

キーワード：メタボリックシンドローム，予防，特定保健指導，
内臓肥満，インスリン抵抗性

はじめに

厚生労働省は、これまで老人保健法に基づいて市町村が実施してきた健康診査と保健指導を大幅に見直し、2008年（平成20年）4月より健康保険組合を実施主体として生活習慣病の特定健康診査と特定保健指導を行うことにした¹⁾。特定健康診査と特定保健指導が、主にメタボリックシンドロームの早期発見と予防に重点をおいていることから、メタボリックシンドロームの関心が国民の間で高まっている。一方、メタボリックシンドロームに関心が集中するあまり、高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙などへの対応が不十分となることが危惧される。新しい生活習慣病の概念であるメタボリックシンドロームを取り入れた生活習慣病の予防活動の発展のために、メタボリックシンドロームの疾病概念と特定保健指導の実施とその

課題について概説する。

メタボリックシンドロームの提唱

世界保健機構（World Health Organization, WHO）は、先進国では2000年の死亡に喫煙、高血圧、高コレステロール血症、過体重、飲酒、果物・野菜の摂取不足、低い身体活動の順に寄与していると報告した²⁾。これらの危険因子による死亡原因は、主に悪性新生物と心血管疾患によるが、世界での心血管疾患死亡は1,670万人で、全死亡の29%を占めている²⁾。急速に高齢社会を迎えつつある日本においても、虚血性心疾患や脳血管障害の原因となる動脈硬化の予防は、寿命の延長をはかるのみでなく、高齢者の生活の質を良くする上でも重要な課題である。このため、その主要な危険因子である高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病、喫煙などへの対策が進められている。

一方、特定者に動脈硬化の主要な危険因子である高血圧、高脂血症、肥満、耐糖能異常が集積しやすく、心血管疾患発症の確率が上昇することが1920年代より知られていた³⁻⁴⁾（表1）。米国のReaven（1988）はこれらの動脈硬化危険因子の集積をシンドロームX（Syndrome X）として提

Kuninori SHIWAKU et al.

1) 島根大学重点研究プロジェクト「中山間地域における住民福祉の向上のための地域マネジメントシステムの構築」

2) 島根難病研究所ヘルスサイエンスセンター島根

3) 島根大学医学部環境予防医学

4) 島根大学医学部病態病理学

5) 島根大学医学部内科学第三

6) 島根大学医学部臨床検査医学

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1